

お申込み→



監査法人の組織力・現場力強化 に向けた講座～2026春

—経営幹部が知つておくべき実践知を習得—

監査業界において中小監査法人の存在感が高まる中、2025年3月に中小監査法人のエグゼクティブの皆さまを対象とした講座を開催しました。本講座は定員30名弱の対面形式とし、講師との対話に十分な時間を設けました。クローズドだからこそ触れられる実践的な話題が多く交わされ、さらに参加者同士の交流も自然に生まれる環境を整えた結果、受講者の皆さまから高い評価をいただき、継続開催を望む声が多数寄せられました。

このような皆さまの期待にお応えするために本年度も中小監査法人の経営幹部の方々を対象に、監査法人ガバナンス・コードが求める対応やステークホルダーの思い・期待を多面的に学ぶ6つの講義をご用意しました。講師との対話や参加者同士の議論を通じて、監査品質の向上や組織づくりに活かせる視点をブラッシュアップする、“開かれた学びの場”を提供します。

プログラム

Day1-1

『企業経営の経験から上場企業が会計監査人に期待することとは?』



島崎 憲明氏

Day1-2

『近時の上場会社の動向と不祥事予防に向けた対応』



長谷川 高顕氏

Day1-3

『中小監査法人のマネジメントに期待すること』



野崎 英司氏

Day2-1

『手作り会社、ものづくり、人づくり 中小監査法人マネジメントに通じる経営の本質—』



和田 成史氏

Day2-2

『会計監査におけるAI利用～事例・リスク・人材の視点から～』



伊藤 公一氏

Day2-3

『公認会計士である独立社外取締役の視点から見た信頼される会計監査人とは?』



野田 弘子氏



葉山 良子氏

開催概要

2026年
開催日時： (Day1 3/11 水 10:00~16:30
Day2 3/16 月 10:00~16:30)

会場： 東京金融ビル（大手町フィナンシャルシティサウスタワー5階）

開催形態： 対面のみ

定員： 25名（先着順）

懇親会： 3/11(水) 講座終了後に懇親会を予定しています。

CPD単位： 各回1.5単位付与予定 ※現在申請手続中

受講料： (会員 45,000円 (税込) ※会員受講料 (45,000円) は法人会員1口につき1名様まで。
一般 90,000円 (税込) 2名様目以降は1名様につき90,000円です。
※含:懇親会費)

プログラム

Day1

1

3/11(水)

10:00~11:30

内容

質の高い会計監査には企業との緊張感のある信頼関係がベースになくてはならない。それには高度な専門知識に加えて、企業経営や具体的なビジネスについて企業幹部と意見交換できる幅広い知識と高いコミュニケーション力が求められる。住友商事では最初の配属先である主計部主計課での決算業務を皮切りに副社長で退職するまで会計監査との縁が切れることがなく、その後も会計関係者とのお付き合いが続いている。上場企業が会計監査人に求めることは何かを今までの経験をもとにお話し意見交換したい。

講師

日本公認会計士協会顧問 小樽商科大学特認教授 三優監査法人経営等監視委員会 独立第三者委員 島崎 憲明氏

2

3/11(水)

13:00~14:30

内容

2022年4月の市場区分の見直し以降、上場維持基準の未達企業に適用してきた経過措置（見直し前からの上場会社への緩和基準適用）が2025年3月に終了し、上場維持を企図した不正リスクが高まること等が懸念される。本講義の前半では、近時の上場会社の不正動向を踏まえ、中小監査事務所が上場会社の会計監査人に就任（交代）する事例が増加傾向にある中で取引所が会計監査人に対して期待することや、実際の審査事例の紹介、不祥事予防に向けた取引所の対応について共有する。後半では、不正予防・発見に向けた中小監査事務所からの取り組みについて講師・参加者間で対話をを行う。

講師

日本取引所自主規制法人 常任理事 長谷川 高顕氏

3

3/11(水)

15:00~16:30

内容

近年、上場会社の監査において中小監査法人の役割が高まっている一方、監査品質を不安視する意見も聞かれる中、資本市場の信頼性を確保するという監査の果たすべき役割を踏まえ、中小監査法人のマネジメントに期待することをお伝えする。

<主なポイント>

- 中小監査法人を取り巻く状況
- モニタリングの考え方
- 根本原因究明と自律的改善努力の重要性
- マネジメントへの期待

講師

公認会計士・監査審査会 事務局長 野崎 英司氏

Day2

4

3/16(月)

10:00~11:30

内容

公認会計士取得後に起業し、50年近く経営の第一線を歩んできた実体験を共有します。順調に見える裏側には、“手作りの会社づくり”から始まった挑戦、組織形成の苦労、失敗からの学びがありました。監査法人と事業会社は組織の性質こそ異なりますが、経営や人材マネジメントには共通する本質があります。事業会社で培われた知見やノウハウを踏まえ、これからの中監査法人の持続的成長や組織経営のあり方を考えます。加えて、IT・社会変化への対応を振り返り、クラウド時代の会計や監査の未来を探ります。

講師

株式会社オービックビジネスコンサルタント 代表取締役社長 和田 成史氏

5

3/16(月)

13:00~14:30

内容

会計監査におけるAI利用が注目を集める中、AIを利用した監査を実施するための事例やポイントを解説します。テクノロジー委員会研究文書第11号「監査におけるAIの利用に関する研究文書」の内容およびアップデート、監査現場での具体的なAI活用事例、AIに関する人材育成、またAIを利用する際のリスクとその対応について、事例を踏まえた上でディスカッションを交えながら幅広いテーマを取り扱います（前半：講義、後半：ディスカッションの予定です）。

講師

日本公認会計士協会テクノロジー委員会 未来の監査専門委員会 専門委員長
PwC Japan有限責任監査法人 パートナー AI監査研究所長 伊藤 公一氏

6

3/16(月)

15:00~16:30

内容

『公認会計士である独立社外取締役の視点から見た信頼される会計監査人とは？』

公認会計士という会計専門家としての共通基盤を有する社外取締役と下記4つのテーマについて、対話・意見交換していただきます。

- ・ 社外取の立場から見た“良い監査人”
- ・ 経営と監査の“建設的緊張関係”
- ・ 社外取が注目するリスクと監査への要望
- ・ 中小監査法人の強みを活かすには

社外取締役との対話・意見交換を通じて、企業の経営層にとって会計監査人はどのような存在と捉えられているのかを理解することで、パートナーとしての自覚と行動指針を再確認する機会となることを目的として本講座を企画しました。

講師

プロビティコンサルティング株式会社代表 公認会計士 野田 弘子氏
葉山良子公認会計事務所代表 葉山 良子氏

お申込みはこちら



Link

二次元コード

